

埼玉県からは、肢不自由児・者のダンスを紹介する。ここでは、肢体不自由のある方々が自分の車いすを駆使し、メリハリのある動きを身に付け、気持ちを込めて踊れるようになることを目指すグループの独自の活動に注目する。

15年前、埼玉県立越谷特別支援学校の在校生および卒業生と保護者で「車いすダンスグループの会」を結成した。現在、県立宮代特別支援学校の卒業生も加わり、20人のメンバーとかつて両校に勤務していた教員ら5人とで月1回、土曜日に学校の体育館に集まり練習を積んでいる。

メンバーは障害の状態に合わせてスタンダードタイプ、電動、足けりタイプ等多様な車いすを使用し、歩行可能な者もいる。年齢や

車いす駆使して芸術性高いダンス

スタンダードの車いす使用者と障害のない者が一緒に踊るダンス



【電動車いす】

- ・直進→ストップ
- ・後方へS字移動
- ・小刻みな前進

【足けりの車いす】

- ・直進→ストップ
 - ・バックターン
 - ・小刻みなステップ
- これらの基本的な動きを組み合わせ、ペアで行ったり、グループで行ったりすることで複雑な動きへと発展させることができる。

経験も幅広いが、ダンスを通し、楽しく交流している。

また、毎年1回のペーイスで発表会を行っており、本年度も15回目をさいたま市プラザウエストのさくらホールで開催した。

ダンスをイメージで語るよう、技術の一部を記す。

【スタンダード】

- ・直進→ストップ
- ・バックターン
- ・キャストアー上げ

が、ダンスや表情、上肢や体幹の使い方を身に付けることで、身体に制限があっても深みのある表現が可能になる。

今後、一人一人が技術を磨き、多くの方々に肢体不自由児・者の独創的で芸術性の高いダンスを知っていただく努力が必要とされている。

(伊藤えつ子・埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園校長)